

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390700080		
法人名	社会福祉法人みずき会		
事業所名	グループホーム ラスパみずき		
所在地	岡山県井原市下出部872番地		
自己評価作成日	平成23年4月2日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年開設し、4月で一年になりました。まだまだ駆け出しばかりで、これから充実させて行かなければならない事が沢山あります。
未熟な私たちですが、利用者様の笑顔がこぼれるように、思っていることを何でも口にしてもらえるような関わりを、これからもしていきたいと思っております。
また、施設には地域交流スペースである「蔵」と「足湯」があります。地域の方に自由に使っていただき、入居者様、職員との交流ができれば幸いと思っておりますので、是非お越しください。お待ちしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390700080&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年4月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームを中心とした母体法人が所有する土地に、グループホームと小規模多機能型居宅介護の複合事業所として開設し、約1年が経過した。「ラspa」とは、フランス語で洗練を意味する「ラフィネ」、微笑みの「スリール」、広場の「パルク」の頭文字をとって名付けられた。落ち着いた高級感の漂う室内では、明るく朗らかな職員に囲まれ、利用者はゆったり、のびのびと暮らしている。利用者には喜ばれる事業所をめざし、1年間で大きく進化した。特にレクリエーションや外出が充実してきた。また、議事録をはじめとした記録類の整備や各種委員会活動など、法人の持つノウハウが運営に活かされている。
敷地内には地域に開放した、無料の足湯浴場と交流スペースがあり、住民や趣味のグループの憩いの場として、利用者が増加しつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に繋がっている	社会福祉法人みずき会としての理念を事業所内に掲示し、定期的に復唱確認を行っている。理念を皆で共有しサービス提供時のバックボーンとしている。	法人全体として方向性は一つという意味で「介護プロとしての職業意識」をはじめ、11項目からなる法人共通の理念を掲げている。事務所に掲示し、名札の裏に印刷し、会議での確認などを通じて、理念に対する職員の理解が向上した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流スペースである蔵や足湯を利用して近隣の方と触れ合う事が出来る。また地域行事(餅つき・文化祭・演奏会)への参加やボランティアの方々との関わり持ちながら地域の一員として日常生活を送っている。	地域の清掃活動に参加したり、敷地内の足湯浴場や交流スペースを無料開放し、住民に利用してもらっている。地元の職員から情報を得て、地域の学校の文化祭や演奏会へ利用者とともにに出かけた。近所とも仲が良く、普段から交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と利用者様の接点を多くすることで利用者様の状態、職員の対応の仕方を見て頂くことが出来、自然と認知症への理解支援の方法を肌で感じて頂けていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GHの現状、活動状況などを説明した後、それぞれの立場から頂いた要望や意見については内部会議で検討し、次回の会議で報告するようになっている。	地域の代表者、市の職員、利用者、家族、法人内の他の事業所の家族会などが参加し、活発に意見が交換されている。地域の行事情報の入手やボランティアとのつながりを持つきっかけにもなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事、迷う事があれば直に連絡、指示を頂くようにしている。 密な関係が作れるように努力している。	事業所開設準備段階から、市の職員が、問い合わせや申請手続きなどに丁寧に応じてくれ、見学にも訪れる等、良い関係を築いている。地域包括支援センターからは、利用条件の問い合わせがあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準については事務所に掲示し、職員が確認理解できるように努めている。 玄関施錠は夜間早朝を除き行っていない。 身体拘束については委員会を設け定期的に勉強会を行っている。	身体拘束は見受けられない。拘束がないよう、職員間で話し合い、入り口の施錠を止めた。また、ベッドから転落した利用者に対しては、家族の了解を取り付け、居室に畳を敷き、その上に直接マットを敷いたり、見守りを強化して、拘束をしないで済むように工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止の勉強会を行っている。 他施設での虐待事件がマスメディアで報道された場合はそれについて話し合いを持ち、改めて自分たちのサービスを見つめ直している。		

グループホームラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度について理解を深められるよう、いつでも閲覧できる所に資料を置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族が納得されることを第一と考え、丁寧に行うように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方には対面にて意見を伺い、家族の方には定期的な「満足調査」を行っている。また、玄関に意見箱を設置し、頂いた意見については改善を図ってきている。	家族アンケートを実施し、要望にはできる限り応えている。結果は運営推進会議で報告すると共に、代表者も内容を閲覧している。家族へはできる限り話しているが、徹底には至っていない。意見箱は玄関の目立つ位置にあるが、一度も投函されたことがない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談、各委員会、小会議、ラスパ会議等で意見や提案を聞く場面を設け、運営に反映させている。	意見を言いやすいと感じる職員が多く、利用者の満足につながる提案が次々と実現している。例えば、ソファが増設され、ベランダには花を植えるプランターが、ウッドデッキにはパラソルと椅子が設置された。回転寿司など外食も実施され、利用者の笑顔が職員のやる気につながった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談を実施して希望を聞いたり、各職員の評価を行う事で状況を把握している。また職場の環境等の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各々に研修計画を立て、スキルアップ・キャリアアップが図れるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での勉強会などに参加し、ネットワーク作りが出来ている職員もいるが、今後は皆がそういった交流に参加しサービスの質向上に繋げられるようにしていきたい。		

グループホームラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面談を行い、本人様から生活をしていく上での要望や不安をお聞きしている。出来るだけ希望に添える生活が送れるよう、職員との信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前の相談のあった時点で、家族様が何に困っているか何を希望されているかを把握できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様それぞれの立場からの話を傾聴し、想いに寄り添う事で、必要な支援の優先順位を考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活している関係ではあるが、どうしても介護される側という役割が見えている。出来る力、持っている力をもっと発揮していただけるように関わっていききたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に利用者様の状態を密に連絡する事で、家族様からのサポートも頂き施設に足を運んでいただける。家族としての絆が保たれるよう「連絡」を大切に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の昔の友人、近所に住んでおられた方などの訪問があった時には、馴染みの関係が途切れないよう、また次も来て頂けるような接遇に努めている。	通院の付き添い時には馴染みの場所を通ったり、買い物をし、近場の利用者の自宅へ同行するなど、可能な限りの支援をしている。利用者の近所の方が子供連れで来訪したり、学校時代の同級生が訪ねてきた時は、互いが楽しい時間を過ごせるよう、配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性、相性などを考慮して集える空間を提供できている。 利用者様がお互いに気付かっている場面や、職員が橋渡しをする事で利用者様が協力して作品を制作する場面も多々ある。		

グループホームラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された方の所にも様子伺いに行かせていただいている。本人様の様子やご家族様と会話することでその後の経過を把握するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様とじっくり話をする事で心の底にある想いを口にされる時がある。また介護現場で得た情報を職員で共有し、対応を行っている。	利用者に担当職員を割り振り、各自、その利用者としっかり関わり、意向の把握に努めている。その情報は、毎日3回の申し送りと介護記録により、他の職員と共有し、その人にとって一番良い方法を模索し、実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を頂く他に、面会に来られた親戚や近所の方からの話に意外な若いころの人物像が見えてくることがある。そういった方からの情報も大切に適切なサービスが提供出来るようにしていきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なバイタルチェック、食事や排泄状態を把握して異常を見逃さないように努めている。利用者様其々の一日の流れの中にも変化があれば、定期的な申し送りで取り上げ、早期の対応を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即したものにす為、一番身近な担当者が作った「お世話プラン」と本人様、家族様の意向を盛り込んで計画作成担当者が作成している。モニタリングも本人様、家族様、担当者の意見を反映させている。	「また働きたい」という利用者には「そのために体力をつけましょう」と、本人の意欲を最優先しつつも、各利用者の担当職員や家族から出た意見や要望も合わせて職員会議で検討し、介護計画に反映している。	モニタリングの根拠となる、介護計画に即した日々の実践状況がわかりにくい。職員には、利用者ごとの介護計画をもっと意識させると共に、記録の取り方を工夫して、利用者の状態が計画の実施状況と連動で理解できるよう、期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活動記録、日誌等に利用者様各々の状態、ケア記録を記入している。職員はそれらに毎日目を通し、特に重要な事柄については申し送りで情報を確実に共有し、介護の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望する事が家族様の了解を得られない場合も多々有り、難しいが、出来得る限り利用者様の意向に沿うように努力している。		

グループホームラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開設して一年が来ようとする今、地域との繋がりが出来つつあり、以前より地域の資源が見えてきている。今後その資源が活用できるよう、利用者様に繋げていけるように努力したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との関係は良好で緊急時における体制は整っている。また、協力病院以外のかかりつけ医を持っておられる利用者様についても緊急時対応の了解は頂いている。	従来のかかりつけ医を継続する利用者は1/3で、概ね家族が付き添っている。残りは、事業所が送迎してくれる利便性や安心面から協力医に変更している。ただし、夜間等の緊急搬送は、現在のかかりつけ医に関わらず、協力医に託する旨の了解を、家族から得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設である小規模多機能型居宅介護に看護職員が2名いるので、身体状況や気づきを伝えて相談し早期対応が出来るように、必要な時には協力医院にスムーズに繋がれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の情報を病院に伝えている。入院中も定期的に訪ね、利用者様、医師や看護師に面会して状態把握に努めている。また、入院中も家族様と密な連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として対応出来る事、出来ない事を家族様、病院関係者に伝えている。利用者様にとって最良の選択をして頂けるように家族様、主治医と連携を図り対応していきたい。	看取り経験はなく、看取りの体制もまだない。入居の契約時に、看取りや医療行為はできないことを家族に説明しているが、それを文書化したものはなく、同意書もとっていない。状況に応じて、特別養護老人ホームなどを勧めている。	契約時の口頭説明だけでは、本人や家族と認識をすり合わせるには不十分である。方針を記した文書を作成し、利用開始後に傾合いを見計らって再度説明し、その内容の理解を得た旨の同意書をとるよう、期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を行っている。誰がその場に当たっても対応出来るようにマニュアルを作成している。職員皆が普通救急講習を修了している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも参加をしていただき、消防訓練を定期的に行っている。	昨年秋に、同じ建物の小規模多機能居宅事業所側で共同の避難訓練を、近隣住民も参加して行った。ほぼ計画通りに避難できたが、通報装置が当事業所側にあるにもかかわらず、隣の事業所のみであると誤解している職員もいた。	避難訓練時だけでなく、日常を通じて消火器や通報装置の使用法などを全職員に徹底するよう、期待したい。合わせて道向かいの山のがけ崩れを含め、総合的な災害対策の充実を期待したい。

グループホームラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な接遇の勉強会を行い「人生の先輩」として遇することを心掛けている。 トイレ使用時はドアを閉める、ノックをするなど徹底している。	利用者を年長者として敬い、名字に「さん」付けで呼ぶ、話に耳を傾ける、トイレはできる限り外で待つなど、基本に即した接遇に力を入れている。馴れ馴れしい言葉遣いや態度には、上長が指導したり、職員間で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で何かをする時は強制ではなく、利用者様の意見を受けるようにしている。想いや希望が口に出せるような雰囲気作り、複数の中から選択出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴については午前中が良い方、寝る前が良い方など希望に添えるように行っている。 食事についても体調、嗜好に合わせて内容、時間を柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容が来られ希望の方には家族様に確認して行っている。また、身だしなみのお手伝いも職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様其々の持っている力に応じて下ごしらえや調理、片付けに参加していただき、負担にならない程度の役割を担って頂いている。	おいしく、栄養バランスに優れ、品数の多い食事は楽しみとなっている。手洗いや消毒を徹底した中で、数名の利用者に下ごしらえを手伝ってもらう。パン食やご飯食など各人の好みにも、ある程度対応している。職員もテーブルを囲み、和やかな雰囲気を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算され、栄養バランスのとれた食事を提供できている。水分量については特に配慮して葛湯、生姜湯など12種類以上の物の中から好きな物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と食後3回の口腔ケアを行っている。歯ブラシ、コップについては一週間に一度消毒を行っている。利用者様のADLに応じて支援を行っている。		

グループホームラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様其々の排泄パターンを職員が把握し、声かけや誘導を行っている。日中は皆様トイレを使用されている。夜間は、利用者様の希望でポータブルトイレを使用されている方もおられる。	職員間の話し合いや前日の記録から、利用者ごとに排泄タイミングを見計らい、さりげなくトイレへ誘導している。夜間は各人の状態や希望により、ポータブルトイレを利用したり、誘導が必要な人にはセンサーマットを敷いている。おむつ使用者は昼夜ともにいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、ご飯は白米に玄米を混ぜており、副食についても野菜を多く取り入れている。水分摂取は一日1ℓ以上を目標としている。午前と午後の体操の時間を設け、参加を呼びかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体の状態に合わせて特殊浴槽、岩風呂、ユニットバスを用意している。明るい時間帯が良い方、寝る前を希望される方など出来るだけ希望に沿うように行っている。	入浴時間は朝昼晩のいずれにも、回数は週2回から毎日まで、利用者の希望に応じている。一人用の個浴、数人が入れる岩風呂、機械浴槽の3種類があり、利用者が好む浴室を使う。20種ほどの入浴剤を常備し、異なる色や香りを楽しんでもらう。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の要望や体調に合わせて、休息していただいたり就寝時間を決めて頂いている。シーツ交換を最低週に1回行い、清潔な環境で安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬情報はその都確認している。薬は個人別、服用時別にケースに管理し、服薬時は一人ひとり手渡し、飲み込まれたところまで確認している。特に臨時薬を服用された場合は、その後の経過を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様其々の得意な事、好きな事で力を発揮していただけるように、充実した時間を持つだけのように支援したいと努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や郵便物投函、買い物など希望に沿った外出が出来よう努めている。人配置の関係もあるが極力対応できるようにしている。また利用者様と家族様合同での季節ごとの外出や外食の機会も定期的に設けている。	開設当初はあまりできなかった外出だが、昨年秋以降は、近所の散歩や買い出しの同行など、日常的に外出できる機会を設けている。月1回は花見などの行事として、家族にも声をかけて少し遠出をしている。テラスや2階のウッドデッキに誘い、日々、外の空気を味わってもらっている。	

グループホームラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の了解があった方については、お金を所持し、希望に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の了解が得られた方については、自由に電話をかけたり受けたりされている。、手紙のやり取りについても代筆、投函など必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の壁は漆喰であり、落ち着ける空間になっている。利用者様の作品や思い出の写真なども掲示して居心地良く生活できるように努めている。	質感や色にこだわった家具を置き、壁にはあまりモノを貼らず、落ち着ける空間にしている。しかし、誕生日会などは、にぎやかな飾り付けで、日常と非日常とのメリハリをつけている。また、アロマの香りを漂わせている。毎日掃除し、清潔な空間を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のスペースの中にもダイニングスペース、ソファのスペース、テラススペース等を用意し、その時々気分により憩っていただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の説明時には、今まで使っていた、慣れ親しんでいる物を持って来て下さるようお願いしている。 家具の配置についても身体状況、希望を確認しながら行っている。	ベッドや家具の配置は、本人の希望や身体状況に応じて、使いやすいように配置している。長年、苦楽を共にしてきた鏡台や、お気に入りの寝具など、各自思い思いのものを持ち込み、安心して暮らせる空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部はバリアフリーであるが、利用者様に新たなニーズが出てきた時には、例えば手摺や柵を作るなど、どのようにしたらその方が安全に自分の力を発揮できるかを検討し、改善している。		